



福祉と平和

～戦争と福祉についてボクらが考えていること～

2015年10月24日(土) 13:00～16:30

※12:30から受付開始

佛教大学常照ホール(成徳常照館5階)

参加無料・事前申込制(※託児あり・要約筆記および手話通訳対応可能)

登壇予定者



～沖縄から～
山城 紀子氏
(ジャーナリスト)



～児童福祉から～
浅井 春夫氏
(立教大学教授)



～障害福祉から～
植田 章氏
(佛教大学教授)



～宗教者から～
森 俊英氏
(浄土宗正明寺住職)

開催趣旨

敗戦から70年、わが国は一貫して平和を希求し、生命の尊厳と暮らしの保障を目指し福祉国家の実現に向けて歩みを続けてきました。「戦争」と「福祉」は相反するものであり、福祉の発展は「平和」の基盤があってこそなし得るものです。社会福祉実践・研究の立場から、あらためてこのことを発信することが必要ではないかと本企画を開催します。

今一度、社会福祉の原点に立ち返るとともに、その社会の実現に向けて、みなさんと考える機会にしたいと思います。

企画内容

13:00~13:10 開会・挨拶

13:10~15:25 各登壇者より問題提起

■ 問題提起① ～沖繩から～ 山城 紀子氏 (ジャーナリスト・元沖繩タイムズ記者)

「沖繩戦と戦争犠牲者としての『福祉』」

現在の情勢動向にもふれながら、これまでジャーナリストとして取り組んできた「戦争／平和と福祉」についての関連性や戦争が及ぼす影響等について言及し、改めて「平和と福祉」についてどのように我々は捉えていけば良いか、問題提起をしたいと思ひます。

■ 問題提起② ～児童福祉から～ 浅井 春夫氏 (立教大学コミュニティ福祉学部教授)

「戦争する国・しない国の分岐点」

人間の使命は、自らが受けた命を使い切ることですが、戦争は戦争孤児をつくりだし、多くのいのちを確実に奪うこととなります。いま考えてみたいこととして、戦争をする国・しない国の分岐点について、私なりの問題提起をしたいと思ひます。

■ 問題提起③ ～障害福祉から～ 植田 章氏 (佛教大学社会福祉学部教授)

「障害者と戦争」

「障害者と戦争」この両者ほど相容れないものはありません。それは過去の戦争の歴史をみれば明らかです。今、日本が再び戦争の道を歩むことのないように、戦時下の障害者の事実学び、人間の生命の尊厳が大切にされる社会のあり方について考えていきたいと思ひます。

■ 問題提起④ ～宗教者から～ 森 俊英氏 (浄土宗正明寺住職・ピースニュースジャパン事務局)

「積極的平和主義」

「積極的平和主義」とは、元々、貧困・抑圧・差別などの構造的暴力がない状態を意味するものであり、現在の日本政府が主張する意とは異なるものです。その上で、「武力による戦争抑止」への批判と合わせ、宗教の教えから学ぶ「人類が歩むべき道」について提言をしたいと思ひます。

15:25~16:25 全体討論 (フロアから意見、登壇者論議、まとめ)

16:25~16:30 閉会・挨拶



大田 昌秀氏
(元沖縄県知事)

シンポジウム開催にあたってのメッセージ

敗戦後70年の節目の年を迎え、貴学では、戦争と福祉についてのシンポジウムをはじめ、「原爆展」や講演会などを催される由、ご同慶の至りです。

とりわけ安全保障法の改変をめぐる危機的状況下で、平和と福祉の拡大を図る重要性は、改めて言うまでもありません。

それだけに平和と福祉の向上は、私たち個々人の日常的努力の積み重ねで初めて達成されることを自覚し、いかなる困難にもめげず、共に頑張っていきましょう。

ご所属 (未記入可)			
代表者名		参加予定人数	
備考			

※ 障がいがある方 (聴覚障がい、肢体不自由等) 何らかの補助が必要な場合は備考欄にご記入ください。

※ 託児・要約筆記・手話通訳ご希望の方は、10月13日 (火) までに、福祉実習課へご連絡をお願いいたします。(託児利用は先着20名まで。対象: 3歳~小学校6年生)

※ 記入された個人情報については、本企画にのみ利用させていただきます。

お問い合わせは、佛教大学学生支援部福祉実習課

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96

TEL 075-491-2141 (代) / FAX 075-495-5723

参加ご希望の方

左記ご記入のうえ、そのままFAXでお送りください。

FAX: 075-495-5723

(佛教大学学生支援部福祉実習課 行)

